自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム天神
（ユニット名）	1F
記入者（管理者）氏　名	藤戸　末子
評価完了日	2008　年　7　月　22　日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	寄り添い、共に歩む （人と人、地域とホーム） 寄り添う心 通い合う心 感謝する心		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送り時やスタッフ会議の時など、日々の心構えとして法人の理念・事業所の理念を常に頭において業務にあたるよう申し合わせている。		自主勉強会や研修に励んでいる。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や「天神だより」で事業所を知っていただけるよう努めている。		2ヶ月に1度、区長・民生委員・家族代表・地域包括支援センターの方々からご意見をいただき、事業所運営に反映している。又、隔月ながら広報誌を家族・地区の方々に配布、理解いただけるよう努めている。
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域のボランティアの方々が毎月おいでくださり、地域の方々と利用者様が共に日舞を観賞したり、カラオケ大会をしたり、又、避難訓練にも参加していただいている。		事業所の畑の耕しや事業所周りの草刈りなど自主的にやっていただき、感謝している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域清掃や老人会の催しに利用者やスタッフが共に参加し、交流に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「天神だより」に認知症への理解と対応についてのポイント等を載せ、広報活動に努めている。	○	今後も更に、高齢者の暮らしに役立つ情報を発信し続けたい。
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をしながら自分達のケアを振り返り、また外部評価で受けた評価を今後の改善点として取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活発に意見交換され、出された意見は所長・スタッフ共に真摯に受け止め、問題点があった時は話し合い、日々サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢福祉課、福祉事務所、国民健康保険課等、関連部署との連携を常に心掛け、健康増進課主催の研修には職員全員の参加を目指している。		二本松市健康増進課主催「介護サービスに従事する職員等口腔ケア教室」にスタッフの8割以上が参加済。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	所長は、権利擁護に対する理解を十分に持ち、スタッフに資料を渡したり、学ぶ機会を持つようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり。全スタッフに周知されている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分時間をとり、丁寧に説明を行い、又、疑問点に関しても納得していただけるよう説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見や苦情を受けたら、スタッフ間で話合いをし、出された意見は運営に反映している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族来訪時に利用者様の普段の暮らしぶりをお伝えしている。又、月に1回ご家族へ近況報告の手紙を現金出納帳・通院記録とともにに送付している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族代表の方に参加していただき、毎回意見や要望を述べていただいている。それらの意見は運営に反映されている。又、ご家族来訪時には、所長はじめスタッフが話しあう機会を持っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議時にスタッフ全員が意見を述べる機会を設けている。又、何かある時は、その都度スタッフに意見を聞き、スタッフの提案は運営に反映されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予定外の状況に対しては、常に緊急連絡網によりスタッフが駆けつけられるように申し合わせ事項ができており、実施されている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の重要性を認識し、職員交代を行う場合は、十分検討している。又、管理者が職員と話す機会を定期的に設けて個人的な悩みや相談を打ち明けることによって、離職まで至らないよう努めている。		
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の確保・向上に向けた育成の必要性を認識しており、職員の立場に応じて新人研修をはじめ所長研修まで行っている。研修終了後は、報告書の提出やスタッフ会議・自主勉強会での発表や伝達講習を行い、知識や技術の共有化を図っている。	○	多くの職員が受講し、技術や知識を深め、地域同業者との交流を図る為にも計画的な学びの機会を確保できるよう支援体制を整えて生きたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所職員が集まり学習会を設けたり、研修旅行をしている。又、安全や衛生に対する対策の意見交換の場も定期的に設けており、サービスの質を向上させるよう努めている。	○	管理栄養士による自主勉強会には同業3ホームのスタッフと訪問歯科診療所の職員の参加があり、有意義な勉強会をした。又、年3回にわけて3ホームの職員が混成チームで研修旅行を行っている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が一息入れられる場所と時間の確保に努めている。又、全職員がいつでも本社役員や人事部長に話しができるよう連絡先が掲示されており、職員のストレス軽減・背景を十分に考慮した環境づくりに取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則った労働条件を整えている。又、運営者は、事業所でおきている状況変化の把握に努めており、事業所や職員が向上心を持って働けるように定期的に事業所・職員の評価を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている（小規模多機能居宅介護）			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫など利用者様の生活歴から教えていただく機会を持っており、座布団カバー作りや料理など一緒に行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	事業所行事にご家族に参加していただいたり、利用者様の健康問題や悩んでいることについて話し合いをもっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時、ご家族は疲れていることが多いので、傾聴に努め、ご家族が十分な休養をとられた頃合いをみて、家族関係の構築が図られるよう支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔職場の同僚だった方や趣味のサークルの方々などがおいで下さり、常に交流されている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が思いやりをもって心配しあったり、助け合いの光景がみられ、事業所内がひとつの家族として成り立っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方のご家族がお茶飲みにいらしたり、自宅でとれた野菜を事業所に届けてくださったりしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の過去歴や趣味・生活歴をふまえ、情報を共有しており、利用者様が素直に自分の感情を表現できるような雰囲気つくりに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に自宅訪問を行い、生活環境の把握に努めるとともに、人生の歩みや趣味等、本人とご家族からお話しを伺っている。又、担当ケアマネージャーから情報をいただいている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース会議やカンファレンス等を通じて把握に努めており、毎日のバイタルチェックや食事摂取状況で体調の把握、通院時には主治医との面談を行い健康維持に努めている。又、事業所内では利用者の気持ちを第一に過ごしていただいている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ケース会議やカンファレスで検討すると共に、本人の希望を確認し、ご家族とも協議した介護計画となっている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等で変化が生じた場合は、主治医やご家族と話しあうと共に、スタッフの意見も加味し、介護計画の見直しを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に生活チェック表(食事摂取量・排泄・水分・バイタル)やケース記録に記入し、職員間で必ず申し送りを行い、情報の共有を図っている。又、介護計画の見直しに反映できるように感性をもってケアにあたるよう努めている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方にはボランティアとして編物を教えていただいたり、地域のボランティアの方々には毎月慰問していただいてる。又、毎年春には消防署指導による総合訓練や救急救命講習、秋には地元消防団の方々との共同避難訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	外出や通院時に本人の希望やご家族の意向を確かめ、本人が疲れないよう介護タクシーを利用している。又、特養希望者には所属先ケアマネージャーとの連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には毎回出席いただき、具体的なアドバイスをいただいている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のほとんどが在宅時の主治医のままであり、なじみのかかりつけ医である。通院時、スタッフは普段の様子をありのままに主治医に伝え、主治医とのコミュニケーションを図るとともに適切な医療が受けられるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者様が精神科・神経内科の専門医を主治医としており、常にスタッフは相談・連絡を密にしている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合は、ほぼ毎日スタッフが顔をだして面会しており、本人の状況把握に努めている。主治医からの病状説明にはご家族の了解を得て同席させていただいている。又、常に医療ソーシャルワーカーとの連携をとっており、必要時相談・支援をいただいている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に主治医との面談や連絡を行っており、重度化した場合や終末期における意思確認を行っており、スタッフ間で情報の共有をしている。しかし、「現時点では答えられない」という家族もいる。	○	本人の意思や家族の意向は、変化することもありうるので、機会をとらえて確認していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在、医療連携に向けて職員の教育と制度の構築に向けて準備中である。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時、ご家族にお願いし、自宅で使用していた家具や布団、湯飲みや食器・箸などなじみの品を持ってきていただいている。利用者様が少しでも安心して落ち着ける空間づくりに努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報使用に関わる同意書を説明し、同意をいただいている。職員は、言葉かけ等十分に注意しており、利用者様の尊厳を損ねることのないようにしている。職員も誓約書を提出している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ちょっとした事でも、利用者様の意向を確かめ、自己決定することができるよう声かけを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は本人の希望時間にとっていただいており、部屋で食べたいと希望がある時はそのようにしていただいている。ほとんど自分のペースでお過ごしいただいている。		
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	昔からの馴染みの理・美容院に行ったり、外出・行事の際は、おしゃれができるよう支援している。又、希望者には出張理容師の派遣もお願いしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを一緒に行い、役割を持つことで充実した生活になるよう支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望むおやつ等、できる限り楽しめるよう支援している。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的に誘導を行い、排泄の失敗を出来るだけ減らしている。又、取り組んだことで、尿意や便意を訴えてくるようになった利用者様もおり、気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、本人の希望と体調の確認をしてから行っているが、夜間は対応できないでいる。	○	人員の配置等、条件が整えば、より希望に沿った対応ができると思われる。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣、体調に合わせて休んでいただいている。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者様のできる事をみつけ、役割やお手伝いをお願いすると共に、楽しみや気晴らしなど楽しく生活できるよう配慮している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	ご家族よりお金を預かり、事業所が管理しているが、家族同意のもと本人が所持している利用者様もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様の体調・希望にあわせ、散歩や買い物に外出できる様支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節を感じていただけるよう花見や遠足・菊人形の見物などを毎年行っており、又、ご家族との外出も希望される場合行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	お誕生のお祝いの品が届いたり、手紙が届いた時など、本人が電話に出て、お話をしてもらっている。又、手紙の書ける利用者様には手紙を書けるような環境を整え支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	自由に面会していただいており、お茶を飲みながらゆっくりお過ごしいただけるよう、心掛けている。		
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、職員全体が正しい認識を持ち身体拘束を絶対しないケアに取り組んでいる。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者様に「寄り添い、ともに歩む」ことを職員は心掛けており、鍵をかけないケアを実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様が安心し、安全にお過ごしいただけるよう常に心配りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具やはさみなど、利用者様の状況を見極めながらお持ちいただいたり、職員がお預かりして使用時手渡すなどしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月安全衛生委員会を開催し、ヒヤリハットや事故に対する方策を話しあっている。分析結果や対策をケース会議で活用している。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の指導による救急救命法を全職員が受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、春と秋に避難訓練を行っている。消防署や地元消防団の方々、区長さん等、地域の方々の協力をえながら行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	転倒の危険や健康上の問題など、家族と率直に話し合い、対応策について協議を重ねている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	本人がいつでもスタッフに言える雰囲気づくりを第一に心掛け、毎朝のバイタルチェックや食欲の状況をみながらひとりひとりの体調管理を行っている。異変発見時は早期対応・早期受診を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様の服用している薬についての勉強会を開き、主作用と副作用、禁忌について全職員が学んでいる。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜の豊富な副食を心がけ、おやつには、果物のヨーグルト和えを提供するなど工夫している。 又、散歩や健康体操も取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員の全員が市の健康増進課主催の講習を受けており、毎食後、ひとりひとりの口腔ケアに付き添い、状態に応じた支援を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立を基に食事摂取量をチェックしたり、必要に応じて水分チェックも行っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	保健師の講義や実技を受講したり、感染症予防マニュアルを全員が勉強し、手洗い・うがいの励行、インフルエンザ流行時期には外出時のマスク着用を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や食器の衛生管理、冷蔵庫管理はきめ細かく行っており、野菜は地元で朝採りした野菜を購入している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植えたり、ベンチを置き、共に語り合える環境つくりをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアは四季折々の風情を楽しめるよう、春夏秋冬に合わせた飾りつけをしており、秋にはお祭りをテーマに利用者様が長年慣れ親しんだものを連想できるような趣向を凝らしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室はトランプの好きな方々の遊び場所、新聞を読みたい人はソファに腰掛けて読むなど自然と自分の居場所で過ごされている。環境を整え、ご自分がやりたいことが出来る様支援している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、長年使いなれたタンスや鏡台をお持ちいただいたり、御自分の作品や家族との写真を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員は、常に換気について気配りをしており、温湿度調整はこまめに行っている。各居室には温湿度計の設置をしており、利用者様が快適にお過ごしいただけるよう配慮している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は利用者様の状態に応じた手摺りの設置を柔軟に行っており、共有フロアも安全を配慮した環境を心掛けている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様の状況に合わせて、自室ドアに目印となるお気に入りものを掲示するなど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑で収穫を楽しんだり、ベンチを数箇所に設置してお互いに楽しめるようにしている。天気の良い日には散歩へ行ったり、玄関前のベンチで皆んなで歌を唄って楽しんでいる。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●定期的に事業所に日舞やボランティアの方々がおいで下さり交流がある。又、地元消防団の方々が避難訓練に協力して下さっている。
●ケア力向上を目指して自主勉強会を定期的に開いたり、外部研修参加を奨励している。
●職員全員が傾聴を心がけ、利用者様ひとりひとりのニーズに応えられるよう心掛けている。
●他事業所の職員との交流や旅行を行い、職員同士が話し合う機会を持っている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム天神
（ユニット名）	2F
記入者（管理者）氏　名	藤戸　末子
評価完了日	2008　年　7　月　24　日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り、職員全員でそれに基づいて支援している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送りや会議の時など常に理念にそってケアにあたることを確認しあっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や天神だよりを作り、皆さんに知っていただける様努めている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日舞観賞の時など一緒に観賞されたり、利用者様とも会話をされている。	○	来年は、開設5周年を迎えるので感謝をこめて地域の方々においでいただけるようなイベントをしたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員で順番を決め、地域での清掃活動に参加している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	「天神だより」を通して認知症について知っていただき、電話相談があればおききする様にしている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で自己評価や外部評価について話し合いをしており、指摘事項については、改善にむけて努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の時に運営推進会議の内容もきちんと報告しており、前向きに話し合いを行い、よりよい事業所づくりへ向けて職員一丸となって取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村での研修やイベントなどがある際は、積極的に参加し、意見交換している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	常に所長から話しがあったり、研修などに参加し、勉強する機会を持っている。	○	職員はこれからも積極的に参加し、勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	常に職員全員で、虐待とはどういうことか話し合ったり、勉強し、気をつけている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に詳しく説明を行っている。疑問点については出来るだけ相手にわかるように説明している。	○	職員全体が会社の基本的な仕組みや決まりごとなど、頭にいれておく必要がある。各人のスキルアップが必要。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々、利用者様の不満や苦情を聞き、スタッフ会議の時に職員全体で考えている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時、普段の様子を話したり、ご本人の近況について、手紙を居室担当者が月1回お送りしている。併せて現金出納帳、通院記録のコピーもお送りしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族代表の方に意見をお聞きしたり、意見箱に入れてくださいと説明している。	○	ご家族が訪問された場合、もう少し時間がとれればよいと思われる。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケース会議やスタッフ会議で全員が意見をのべており、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	緊急連絡網を作成しており、所長や所長代理は緊急時や夜間等柔軟な対応と指示を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員ひとりひとりの意見を大切にし、一人で考えこまないようにサポートしている。		
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修してきた内容など会議の際、発表してもらい職員全体で理解している。発表する方も、ポイントを押さえてわかりやすく説明する様勉強している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会を通じて意見交換している。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間がきちんととられていて休めるようになっている。ストレス対処法の研修にも参加している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	健康面にも気をつけ、職員全体が仕事に対して向上心を持って働けるよう会社で取り組んでいる。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様に料理や掃除を手伝って頂いたり、わからない事は教えて頂き、協力し合って過ごしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に現状を報告し、面会時に事業所のケア状況をみていただくことにより、スタッフと一緒に利用者様を支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様がご家族とのよい関係が維持できるよう支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙など利用者様の状態にあわせて支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲のよい利用者様同士が過ごせる配慮を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方の奥様が入居され、定期的に訪問面会の支援をご家族と力を合わせて行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
１．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族との会話・生活歴・暮らしの情報等を背景におきながらとりこむようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅を訪問させていただき、必要な情報の把握に努めると共に、担当ケアマネジャーより経過をお聞きするようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	情報の整理を行い、総合的に把握するよう努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎月ケース会議、カンファレンスを行って検討を重ね、本人や家族に意見を伺い、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っており、入院・退院などにより、状態変化が生じた場合は、新たに作成し直している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を記録し、ケアプランが適切に実施されているか、或いは本人にとって十分なものであるかを検証している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員さんをはじめ、地域ボランティア・消防署・地元消防団・市健康増進課等の協力を得ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向をふまえて、病院の医療ソーシャルワーカーや特養ケアマネージャーとの連携を図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には毎回出席いただき、助言をいただいている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者様が入居前からの主治医であり、スタッフは事業所での状況についてありのまま伝えることにより、主治医と本人の関係がよりよいものとなるよう支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの利用者様が精神科または神経内科の医師が主治医となっている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者様が入院した際には、ご本人やご家族の了解を得て、その都度医師からの病状説明に同席させてもらっている。又、必要に応じ、医療ソーシャルワーカーも同席いただいている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期における希望について事前確認書をいただいている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療連携について体制を整えつつあり、職員教育を計画している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居時には馴染みの品を出来るだけお持ちいただくようお願いしている。退居時は、移動先ケアマネージャーとの面談や情報交換を行っており、その後の経過についても面会訪問することがある。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** （１）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に「個人情報使用に関わる同意書」を説明して同意をもらい、関わり方に注意を払っている。又、職員も個人情報に関わる誓約書を提出しており、対応に留意している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	些細な事でも利用者様に選んでもらう場面を作り、自己決定すること、希望を表すことができる声かけを行っている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者様の気持ちを大切にし、本人のペースで進められるよう支援している。		
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	昔から馴染みの理・美容院に行ったり、行事や外出の際は、おしゃれを楽しんでもらえるように支援している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と準備の割り振りをしたり、畑に食材を採りにいったりして、利用者様の力を発揮できる場面つくりをしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌を楽しむ利用者様もおり、本人の好むものを出来る範囲で楽しんでいただいている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレ誘導を定期的に行い、排泄の失敗を減らし、気持ちよく過ごしていただいている。又、サインを見逃さす、トイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2～3回としており、一人ひとりの希望やタイミングに合わせた支援が十分とはいえない。	○	利用者様一人ひとりの希望をお聞きし、満足のいく入浴サービスが提供できるようにしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の従来の生活習慣に合わせて、昼寝をしていた方にはしていただき、早く寝るのが嫌な方は、スタッフと談笑するなど安寧な気持ちで床に入れるよう支援している。		
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者様に合った役割をみつけ、仕事を頼んでいる。本人の好きなこと、得意なことが日々の生活に生かされる様支援している。又、職員は、利用者様に感謝の言葉を伝えるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	自己管理が可能な利用者様には、ご家族と相談の上、財布を持って頂いている。又、買い物にはスタッフが同行し、利用者様の状態に合わせて支払えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	事業所内だけで過ごされずにその日の利用者様の希望をききながら散歩をしたり、雨の日にはドライブなどを楽しんでいただいている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	墓参りや外出などご家族と連携しながら、希望にそった支援をしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者様それぞれに応じた方法で、電話や手紙など外部との交流ができるように支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	どなたでも自由に面会に来ていただいている。 ゆっくり面会いただく為に、居室にお茶や椅子を運び、心地よい環境つくりを心掛けている。又、ご家族もたまに宿泊され、ご本人との楽しい一時をすごされている。		
（４）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者様が受ける身体的弊害、精神的弊害について理解し、拘束しないケアを行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外へ出かけていきそうな時は、止めるのでなく、さりげなく声をかけて話をしたり、一緒に散歩にでかける等の対応をし、自由で安全な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず一人はフロアにいて、利用者様全員の所在確認ができるようにしている。又、職員同士が声を掛け合い、状況確認ができるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者様の状態に合わせて、危険物を居室より預かり、保管・管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月、安全衛生委員会を開催し、事業所全体の事故防止に取り組んでいる。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、救急手当てや蘇生術の研修を実施し、職員が対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導や地元消防団の方々の協力をえながら、毎年定期的に訓練を行っている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	利用者様一人ひとりに予測されるリスクをご家族と話し合い、抑圧感のない暮らしが、行動心理障害を軽減していることを説明し、理解が得られるように努めている。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル測定結果以外でも利用者様の体調に変化がみられた場合は、上司に報告し、医療機関受診に繋げている。経過状況も個別に記録している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは、利用者様個々の薬の内容を周知しており、正しく服薬できるよう支援している。薬が変更になった場合は、全職員が内容を周知できるように業務日誌に記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便記録表を利用して利用者様の状態を把握している。又、予防のために水分や食べ物でも工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けを行い、一人ひとりの力量に応じて、見守り、介助を行っている。夜間は必要な方に、義歯洗浄を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様に合わせた主食の量を測り、栄養管理している。栄養バランスの良い食事になるように管理栄養士にメニューを依頼している。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルがあり、全員周知している。利用者様は、本人・家族同意の上、インフルエンザの予防接種を受けており、職員も予防接種を受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	１日おきに食材の買出しを行い、新鮮な食材を使用している。食器乾燥機を使い、コップや台拭きはハイターにつけて消毒し衛生管理をしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にベンチを置いたり、プランターを置き、明るい雰囲気をつくり、くつろげるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では、テレビの音量など利用者様にとって不快でないよう注意している。壁に季節感が感じられる飾りなど居心地よくすごせるよう注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテーブルや椅子は、その時々の利用者様の状況に応じて配置し、仲のよい利用者様同士で過ごせるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇・家具などこれまで使っていた物を持ち込み、利用者様に居心地よく過ごしていただいている。又、ご家族にそのように働きかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入れ換えや温度調節について職員は、常に意識して行っている。又、各居室に温湿度計を配置しており、適温湿度に配慮している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・風呂場・玄関等に利用者様の状態に合わせた手摺りが設置されている。トイレ・風呂場での介助は、利用者様の身体状況に合わせた支援をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口には、本人がわかる目印をつけ、混乱を招くような環境要因は速やかに補修している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前で日向ぼっこが出来たり、花の手入れや草取りが安全にできる環境が整っている。玄関前のベンチは、いつでも利用者様が自由にくつろげる場となっている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない	⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない	⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない	⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

●職員は日々、利用者様本位のケアを考え、その人らしい暮らしを続ける為の支援に努めている。
●「寄り添い、共に歩む」を事業所の理念とし、利用者様が安全・安心して暮らしていける様心掛けている。